

■開催概要

平成27年10月に策定した「五泉市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略」の推進にあたり、各事業の評価・検証を行うことを目的として開催しました。

意見交換では、4つの基本目標ごとに、数値目標・重要業績評価指標（KPI）達成に向けた取り組みの方向性や今後の展開、施策・事業の改善点などについて、ご意見・ご提案をいただきました。

日時	第1回 令和元年7月3日（水）午後2時～4時 第2回 令和元年7月10日（水）午後2時～4時
会場	第1回 五泉市総合会館、第2回 五泉図書館
参加委員	第1回 16名、第2回 12名 （産学官金労言士の各分野計20名で構成）
内容	●説明 （1）第2次総合戦略の策定について （2）計画の概要、スケジュール等について （3）市民アンケート・ワークショップの結果について （4）平成30年度事業の検証について ●意見交換 平成30年度事業での「各施策の方向性・取り組みについての意見・提案」

■実施状況



市民検討委員会の様子

■意見交換「各施策の方向性・取り組みについての意見・提案」

基本目標	意見
I 未来世代を 守り育てる	<p>【基本方針1】結婚・出産・子育てまでの切れ目のない支援</p> <ul style="list-style-type: none"> この事業で実際にカップルが成立して、結婚まで進めば良いことである。カップルが成立した先に踏み込むことは難しいと思う。 婚活イベントを11月にも新潟市内での開催を予定している。男女15人ずつしか集まらないのが現状であるが、工夫して多くの方に参加して頂けるように取り組んでいく。 ファミリー子育て応援パスポート事業は、とても便利でお得なものであると続けていただきたい。 1次策定の時も産婦人科についてお話しした。安心して産み・育てるには、どうしても出てくる課題である。5年前にも善処しますと伺ったがそこから何か進展はあったのか。非常に重要なことだと思っており、次回の策定の中で少し触れていただきたい。 →五泉中央病院からは産婦人科の新設は無いと言われたと聞いており、現状で進展はない。ワークショップでも産婦人科の話が出ており、市としても考えていかなければならない。 産婦人科の体制として3人いないとローテーションが組めないという話を伺った。
II 産業の活力を 高める	<p>【基本方針1】五泉ブランドの競争力強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 新潟薬科大学ではフチヴェールという野菜を開発しており、新潟大学以外の大学とも連携をしてはどうか。 新潟大学の学生が命名した「いもジェンヌ」というお菓子は、学生が関わってきた物語が見える。 ニット産業は海外にも進出し、世界の五泉とまで言われている。子どもたちには、五泉のニットは日本一だという誇りを持ってもらいたい。 <p>【基本方針2】産業振興と就業環境の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> 新潟県では270人程度が新規就農されているが、法人への就農が7割を占めており、非農家の方が多い。法人は雇用保険がかけられる、企業と同じように休みが取れる等が魅力になっているのではないかと。 若年者職業的自立支援事業については、昨今話題になっている引きこもりになっている若者等も対象になるかと思う。事業の担当課は商工観光課であるが、例えば福祉課など他の課と連携して、そういうご家庭の情報を得て、就労に向けたもの策かと思う。
III 五泉の魅力をつなげる	<p>【基本方針1】地域の特性を活かした交流の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 桜アロマ事業の商品は、五泉市民の認知度が低い。市民への周知を図ることにより、市民が販売員になってくれる。そうすれば自ずと市外にも広がるのではないかと。 桜アロマ事業に商売でいえば、この額では成り立たない。 観光客減少の原因を「天候」にしたが、天候だけで20万人も観光客が減るのか。 →春の花シリーズが市全体の4割を占める。H30は、4月の桜まつりが悪天候で6万人減少した。チューリップやボタンも気象条件が悪かった。 桜アロマ事業について、ゼロからスタートしてここまで形にできたことは評価が高い。金融機関も全面的に協力して販路の拡大を図っている。 桜アロマ事業は、ないところから始めて、実績が伸びていることは事実である。どこでもやっていない試みである。 桜アロマ事業は、子どもたちにとっても五泉の魅力のひとつになる。 五泉応援団交流ネットワーク事業については、応援団会報が年1回発行されているが、市民向けの会報を発行しても良いのではないかと。新規加入者を増やすために、活動内容等を市民に周知・PRするのも大事ではないかと。 ホームページをリニューアルするにもお金がかかると思うが、SNS等いろいろなやり方がある中でいつまでもホームページでいいのか。それぞれの人に届かない情報はないものと一緒にある。ホームページを無くす訳にはいかないと思うが、今後の発信の方法・あり方を考える必要があるのではないかと。 影響力の大きい人を呼んで味わったり体験してもらったりして、それを発信してもらおうというやり方もされているかと思う。 <p>【基本方針2】地域の魅力を活かした移住の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ウェルカムファミリー住まいる事業とファミリー住まいる応援事業はどちらも非常に良い取組である。新潟市の方からも五泉市さん凄いなと言っていた。新潟市から五泉市の区域へ入るだけで、土地が安く、さらに補助金が入ってくるとその分値段が浮き他のことに回すことができる。補助金があることで、皆さんが住んで税金を落として、また子どもが出来てというのは良いことであり、ぜひ継続して頂きたい。 ニット業界を新潟市や東京圏にもPRしているが、実際に五泉市のアパートに住む時に住宅補助が出る等も若い人の取り込みに繋がるのではないかと。ニット組合もそういう部分もアピールして若い人を就労する体制が取れば良いと思う。
IV 確かな暮らしを 充たす	<p>【基本方針1】未来へつながる安全・安心なまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 除雪事業については、今現場に出ている方は高齢であり5年後には厳しくなる。業種問わず若い人材の育成を考えた方がよいのではないかと。今後人手が足りずに除雪できず地域が孤立するようなこともあるのではないかと。 建設業界、ニット業界も若い人が入ってこない。
総合戦略全体 に対して	<ul style="list-style-type: none"> 自分の子ども達が五泉市へは帰ってこない理由として魅力的な職場がなかったということが挙げられる。魅力的な職場があって、それなりの所得も得られて、生活も安定して子どもを産んでといったことが基礎になると思う。近所を見ても高齢者が多く子どもがおらず、あと20年後どうなるのかという危機感がある。 一つ一つの事業は非常に良い事業であるが、市民の一人一人にどうしたら情報が伝わるのか、伝え方が非常に大事ではないかと。 私は兼業農家であり、私の集落も年寄りが多く、後継ぎがない。続けるにしても機械の購入などで全然採算が取れないため、みんな辞めていく。法人に雇われる状態であればまだなんとかなる。新規就農者に対する支援だけでなく、このような集落に対しても対策して頂きたい。 民間企業の関わりが書面からは見えてこないが、もっと民間の力を借りて進めていく方がよいのではないかと。 商店街のシャッター通り化が加速している印象である。新潟市に沼垂テラスというエリアがあり、古い商店街であったが建物をリノベーションして、おしゃれなエリアになっている。また若い方が格安で借りられるようにしたり、朝市を開催したり幅広い年代が集まっている。視察に来られるくらい全国的にも注目されている。五泉市にも人が住んでいない商店が増えており、そこを転用する等やりようがあるのではないかと。今もイベントで活用しているかと思うが、お店がどんな形でも開いている、増えていくのは新規事業の創設にも繋がり、いろいろな効果があるのではないかと。商店街を今からでも何かできないかと思う。そこにいる人もいきいきとして、そこに行く人もワクワクするようなことの中にヒントが潜んでいるのかと思う。